

新宿区 UD まちづくり ニュースレター

Vol.
18
AUTUMN

第18号
2025.09

UDスポット
新宿サブナード
しんじゅくさぶなード

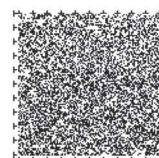
ユニバーサルデザイン

UD とは？

年齢・性別・国籍・個人の能力等にかかわらず、できるだけ多くの人々が利用できるような生活環境その他の環境をつくり上げていく考え方です。

新宿区には、多くの外国人をはじめ、様々な人々が生活しています。区では、移動しやすく、利用しやすく、わかりやすいまちを目指して、令和2年3月にUDまちづくり条例を制定しました。

このニュースレターでは、UDスポットの紹介や利用者の声、新宿区の取組などをお伝えしていきます。



Uni-Voice

新宿サブナードは、JR 新宿駅、西武新宿線西武新宿駅、東京メトロ・都営地下鉄新宿三丁目駅をつなぐ地下街として1973年に開業し、2023年には開業50周年記念事業として全館リニューアルを行いました。今回はそのうち、誰もが安全・安心に心地よく過ごせる工夫がされたポイントをご紹介します。

全席に
コンセントと
USB コンセント
を設置



全身鏡がある
フィッティングルーム



ミニラウンジ

誰でも椅子に座って一休みしたり
待ち合わせに利用したりすること
ができる空間

利用者コメント

写真提供 新宿サブナード株式会社

職場が近いので、昼休みに
ほぼ毎日来ています。館内
全体が涼しく、ミニラウンジ
には椅子があって座ることも
できるので良いと思います。
(50代・男性)



着替え台と
おむつ用ゴミ箱

ベビーラウンジ

乳幼児連れの方でも安心して買い
物ができるように設置された利便性
の高い空間



荷物台付き
ベビーカー置き場

ベビーシート

写真提供 新宿サブナード株式会社

落ち着ける
授乳室



電子レンジ、水道、
浄水給湯器があり、
ミルクをつくること

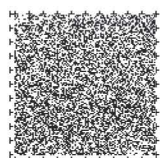
利用者コメント

普段からよく利用しています。ベビーラウンジには授
乳スペースなど様々な機能があるので安心して買い物
をすることができます。

また、ベビーカーを使っているの、エレベーターが
できて移動しやすくなりました。
(30代・男女・親子3人組)



飲み物だけでなく
おむつも買える
自動販売機



Uni-Voice



階段の
点字付きの手すり

Good
UD
ポイント

移動をスムーズにするエレベーター

従来の駐車場とサブナード商店街をつなぐエレ
ベーターに加え、新たにサブナードとメトロプロム
ナードをつなぐエレベーターが設置されたことで、
様々な方がより快適に移動できるようになりました。



写真提供 新宿サブナード株式会社

サブナード内通路の各所に
設置された案内図。

目の前に立った時、常に進行方向が
上側になるよう工夫されており、
方向を確認しやすい。

Good^さ
UD
ポイント

一目でわかる案内サイン

分かりやすく工夫された案内図やマップ、ピクトグラムを整備することで、初めて訪れた方でも迷わずに目的地へたどり着ける環境を整えています。



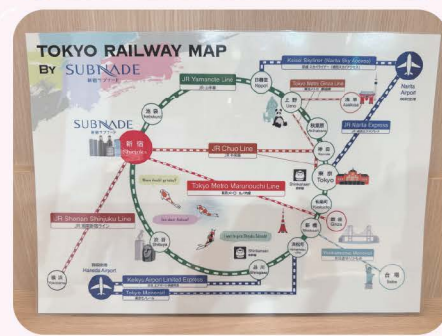
ぱっと見て設備の用途がわかる
ピクトグラム

店舗の従業員が
お客様から聞かれた
際、目的地までの
道順を指でさし示し
ながら説明すること
で、外国人にも
手軽に伝えることが
できる。

全店舗に配布されている
館内の指差しマップと路線マップ



館内の指差しマップ



路線マップ

利用者コメント

リニューアルしてからは初めて来
ました。全体が綺麗になっていて、子
どもでもわかるような案内のサインや地
図も多くあり、利用しやすいです。
(40代・女性・親子3人組)



運営者インタビュー

新宿サブナードは、開業 50 周年を機に全館リニューアルを行いました。リニューアルにあたり 3 つのビジョンと 6 つのミッションを設定し、それを実現する方策の 1 つとして、**館内のバリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入、言語に対する利便性のサポートの徹底**に取り組みました。その一部が今回ご紹介している「3 種類のラウンジの新設」「エレベーターの整備」「案内機能の充実」です。

また、それ以外にも、広場に自然光を模した照明を使用し居心地の良い空間を創出したり、多目的トイレを増設するなどしています。

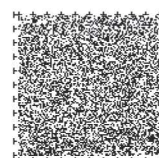
今後も、様々な人が訪れる新宿において、人々の趣向の多様化やボーダーフリー（バリアフリー、エイジフリー、ジェンダーフリー等）を考慮し、新宿来街者に寄り添う施設として、人および街に優しい施設づくりを継続することで、地域に貢献していきたいと考えています。



新宿サブナード株式会社
事業本部 SC 事業運営部
中村さん



新宿サブナード株式会社
事業本部 計画・推進部
岡田さん



Uni-Voice



「建物」と 「UD まちづくり」



特定非営利活動法人
実利用者研究機構
新宿区ユニバーサルデザイン
まちづくり相談員
岡村正昭さん

私は、世の中の「わかりにくい、使いにくい」を解消する調査研究機関の「実利用者研究機構」で、企業や自治体向けにユニバーサルデザインの指導・研修・アドバイザーをしています。

「建物のユニバーサルデザイン」と聞くと、皆さんは何を思い浮かべますか？スロープや手すり、点字ブロックなどを思い浮かべる人が多いかもしれませんが、実は、これらはバリアフリーです。

バリアフリーの考え方には、「後付け」という特徴があります。例えば、あるマンションの入り口に階段を設置しました。利用者が階段の昇り降りに問題がないときは気がつかなかったのですが、怪我をして松葉杖になった利用者が階段の昇り降りで転倒するなど事故がおきたので、対策のために手すりを後から設置しました。手すりを設置した後に、今度は別の利用者が事故などの原因で車いす利用者になりました。すると、手すりがあっても階段を昇り降りすることができず、対策のためにスロープを後から設置しました。スロープを設置した後に、今度はスロープを自力で登れないタイプの車いす利用者もいるので、対策してほしいと要望がでました。そのため、「車いす昇降機」を工事して後から設置しようとしたましたが、予算やスペースの都合で設置することができませんでした。

この事例のポイントは、後付けで対策を取ることが問題ということではありません。後付けの工事で問題になるのは、もともと予定していなかった改修工事の

ため、できる工事内容に制限があり、しかも費用がとも高額になることです。それが理由で工事を断念している建物はたくさん存在します。

もしも、はじめの段階で、どのような特性の利用者がいるのかを分析、把握した上で、建物を設計していれば、最初の工事費用が高くても、問題が発生しないように設計しているので、利用者が安心して長期的に利用することができます。このような考え方が「建築におけるユニバーサルデザインの考え方」になります。建物に関わる提供者は、身体特性や精神特性が原因で「住みたいのに引越さないといけない」「利用したいのに利用できない」という想いを利用者にさせないためにも、いつも実際の利用者を観察して、分析して、建物を設計していく必要があります。

また建物を使っている利用者も、今の自分だけでなく、将来の自分や家族、自分に関わる人の特性が加齢も含めて変化していくことを意識した上で、建物を選んでいくという考え方が必要になると思います。

できるだけ多くの方が利用できる建物を増やしていくために「新宿区ユニバーサルデザインまちづくり条例」があります。「困ったことが発生してから対応する」のではなく、「はじめから困ることがないように考える」設計していくことで建物は進化していきます。あなたも多様な人々にとって魅力的な建物を想像しながら、街を観察してみてはいかがでしょうか。

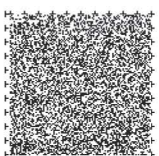
ニュースレターの「バックナンバー」を是非ご覧ください！

これまでの UD まちづくりニュースレター（創刊号～第17号）は、新宿区のHPからPDFファイルで閲覧できます。新宿区内のユニバーサルデザインに配慮した施設の紹介のほか、UDについてのコラムも掲載しています。

新宿区のHPはこちら→



新宿区からのお知らせ



Uni-Voice

取材・編集：(株) 梵まちづくり研究所

新宿区ユニバーサルデザインまちづくりニュースレター 第18号（令和7年9月発行）
お問い合わせ先：新宿区景観・まちづくり課 電話：03-5273-3843 FAX：03-3209-9227